

海難状況等について

海上保安庁

交通部

平成28年2月

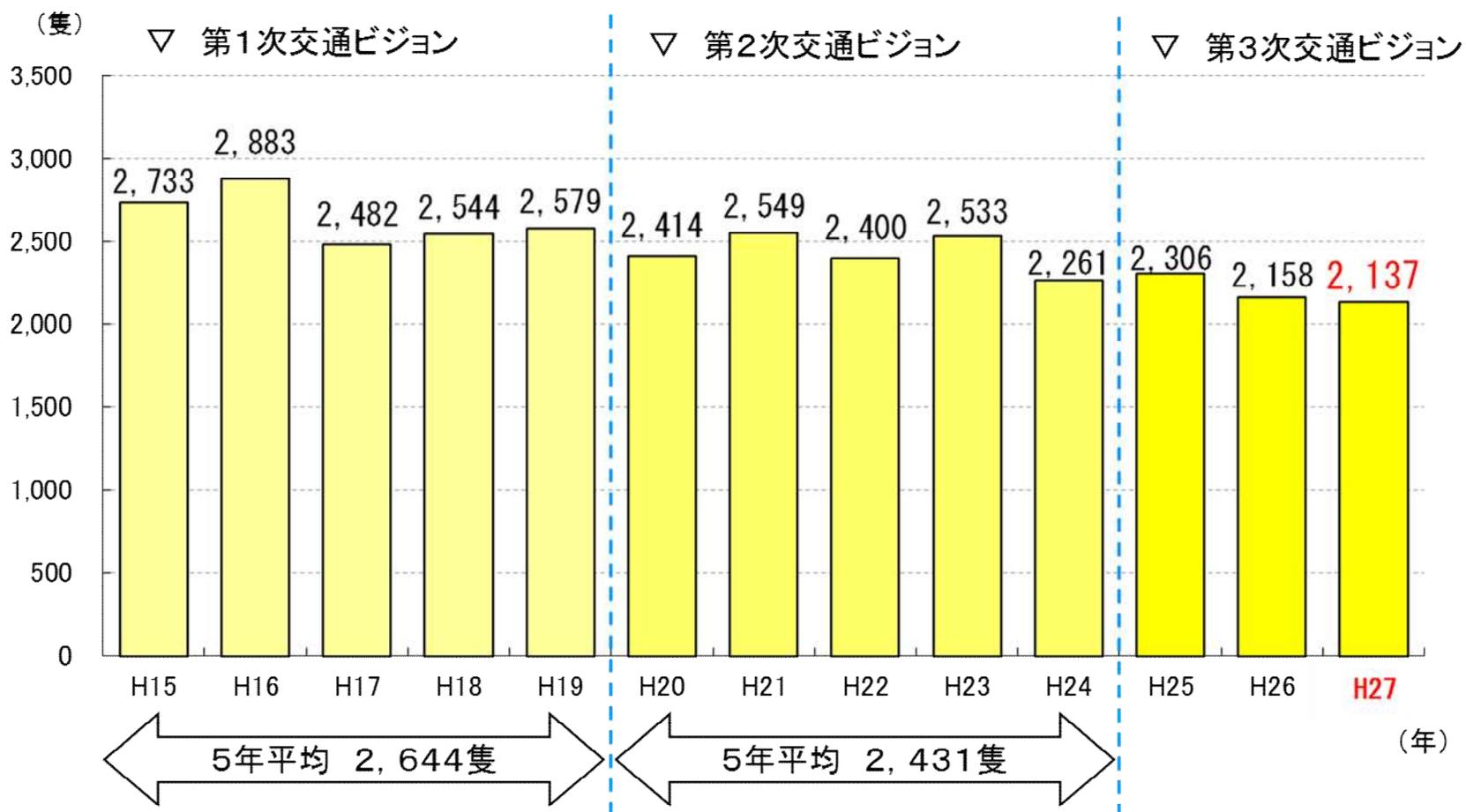


	ページ
船舶事故の現状	1
全体傾向	2 ~ 5
小型船舶	6 ~ 9
計画目標に関する船舶事故状況等	10
ふくそう海域における衝突・乗揚事故の低発生水準の維持	11
港内等における衝突・乗揚事故の減少	12
小型船舶における事故の減少	13
[参考]第9次交通安全基本計画の目標	14
[参考]AISの普及状況	15

船舶事故の現状

船舶事故隻数の推移(平成15年～平成27年)

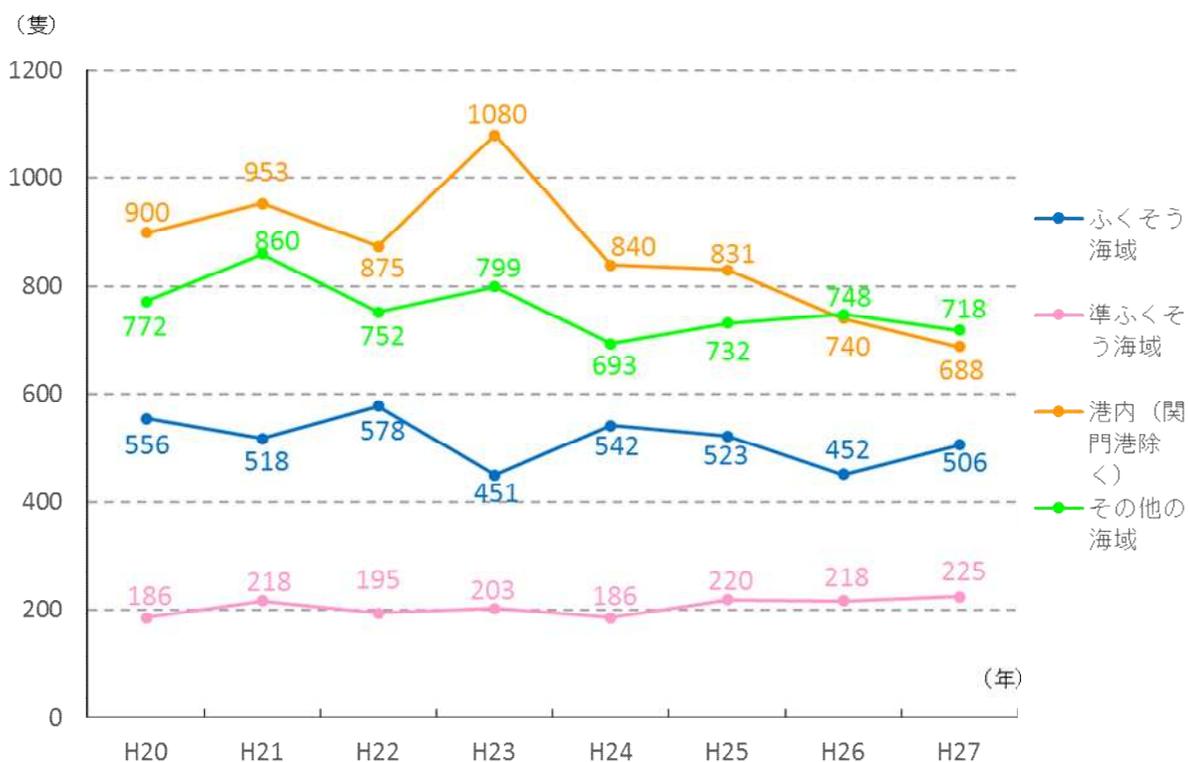
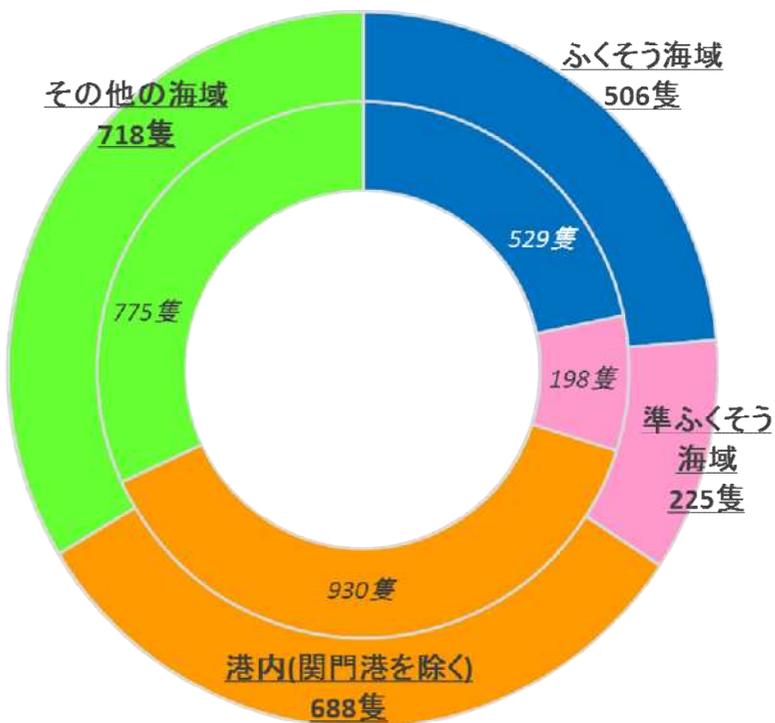
- ・平成27年の船舶事故隻数は、**2,137隻**、前年と比較して、**21隻減少**(1.0%)
- ・第2次交通ビジョンの期間(20～24年)の年平均2,431隻と比較して、**294隻減少**(12.1%)



平成27年の数値は、平成28年2月1日現在の速報値 (以下同じ)

海域別による船舶事故隻数の推移

前年と比較して、ふくそう海域で**54隻増加**(11.9%)、準ふくそう海域で**7隻増加**(3.2%)、港内で**52隻減少**(7.0%)、その他の海域で**30隻減少**(4.0%)



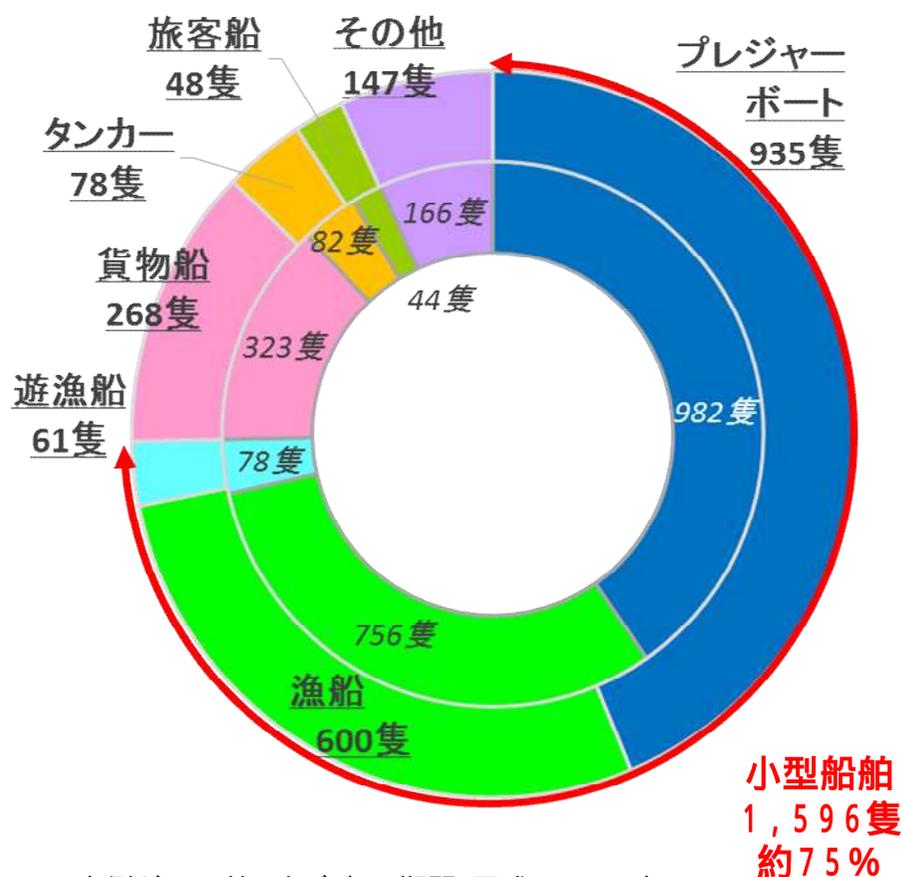
内側グラフ: 第2次ビジョン期間(平成20~24年)の年平均事故隻数

外側グラフ: 平成27年事故隻数

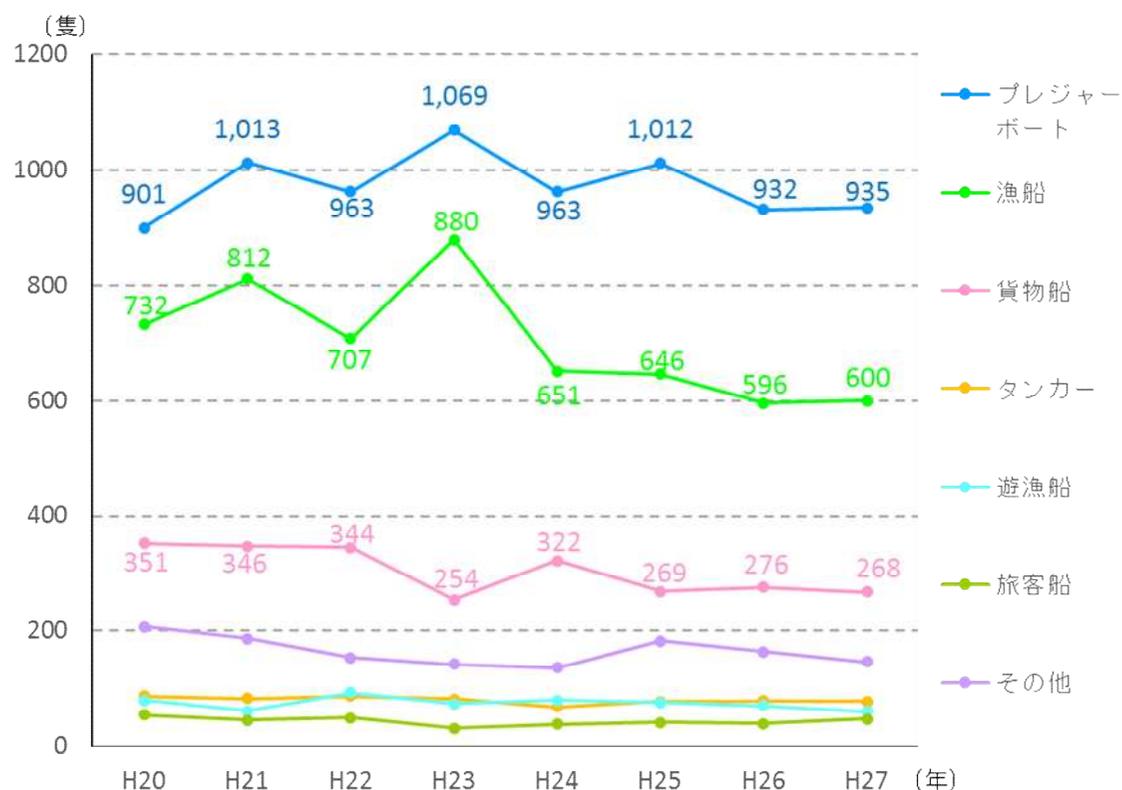
ふくそう海域
東京湾、伊勢湾、瀬戸内海及び関門港(海上交通安全法適用海域又は港則法適用海域)
準ふくそう海域
ふくそう海域を結ぶ東京湾湾口~石廊崎沖~伊勢湾口~潮岬沖~室戸岬沖~足摺岬沖の各海域を経て瀬戸内海に至る海域

船舶種類別による船舶事故隻数の推移

前年と比較して、プレジャーボートが**3隻増加**(0.3%)、漁船が**4隻増加**(0.7%)、貨物船が**8隻減少**(2.9%)
船舶事故隻数に占める小型船舶の割合は、**75%**と多くを占めている。



内側グラフ: 第2次ビジョン期間(平成20~24年)の年平均事故隻数
外側グラフ: 平成27年事故隻数

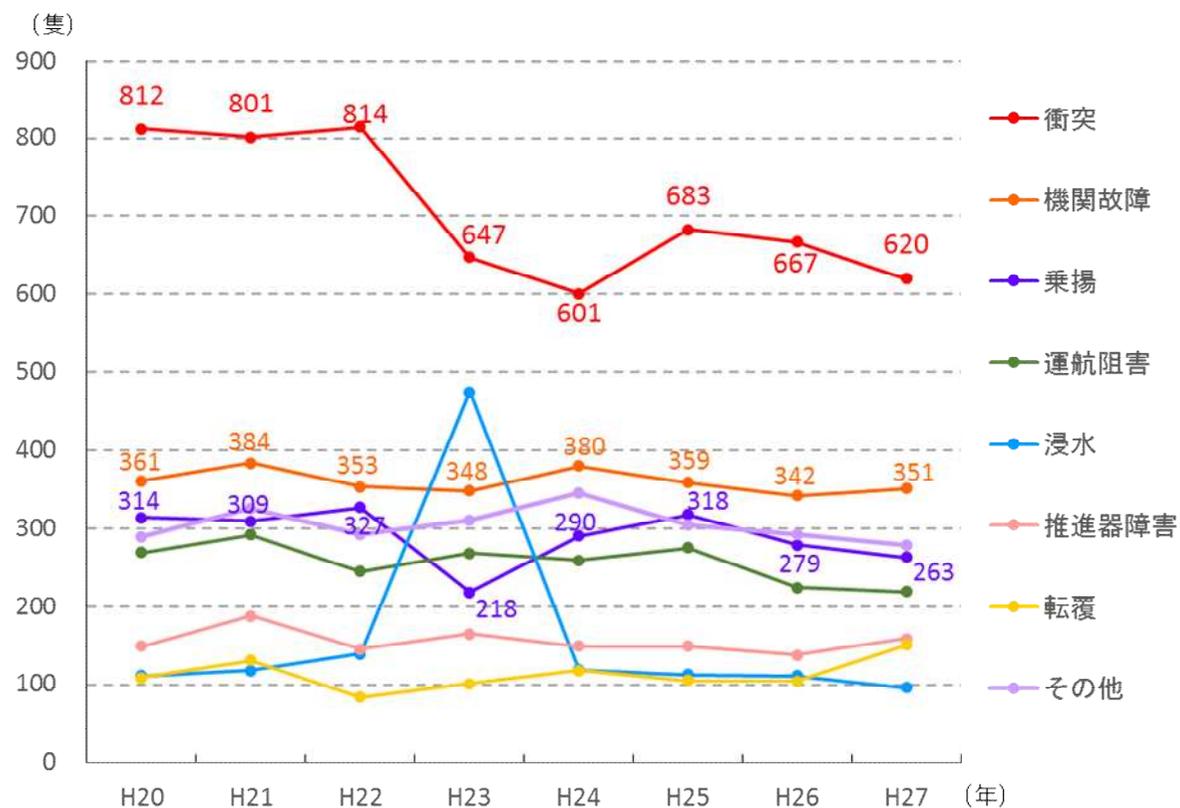


山陰地方豪雪関連事故(浸水)を含む
<内訳>

- ・H22: 6隻(漁船2隻、プレジャーボート4隻)
- ・H23: 346隻(漁船215隻、遊漁船8隻、プレジャーボート119隻、その他4隻)

事故種類別による船舶事故隻数の推移

前年と比較して、衝突が**47隻減少**(7.0%)、乗揚が**16隻減少**(5.7%)、機関故障が**9隻増加**(2.6%)

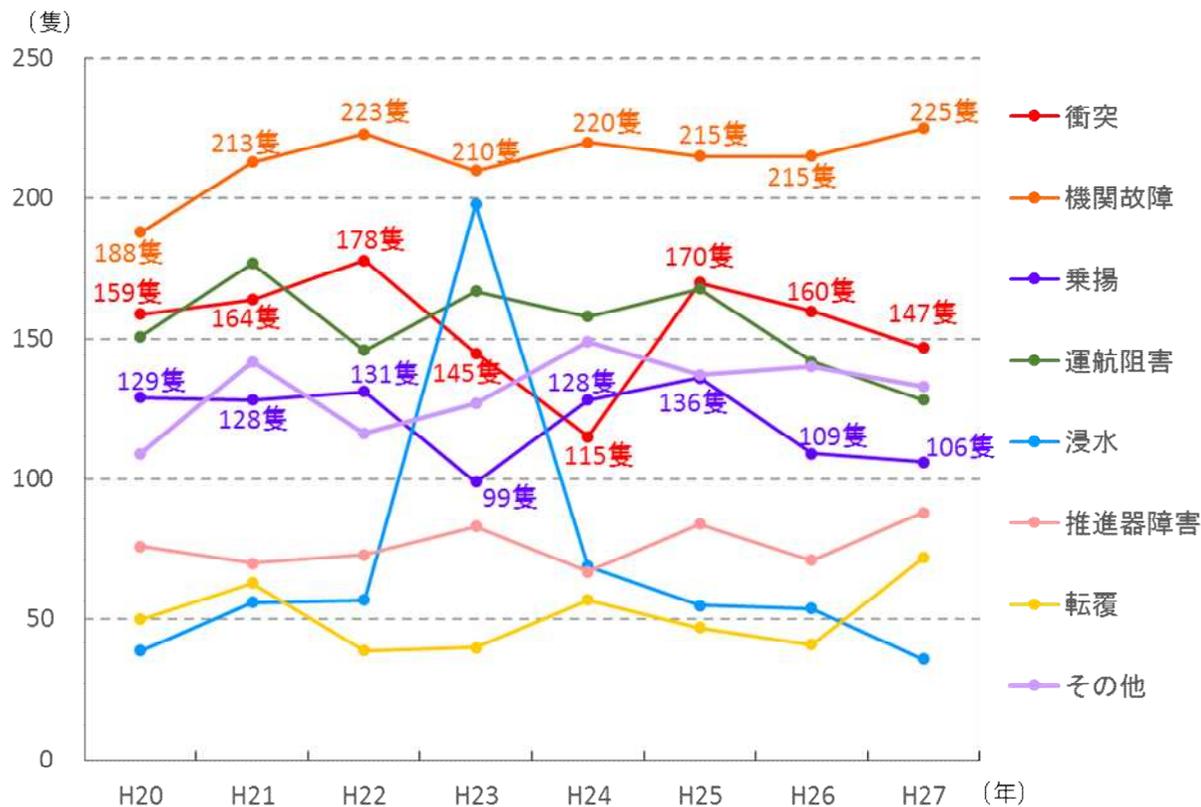
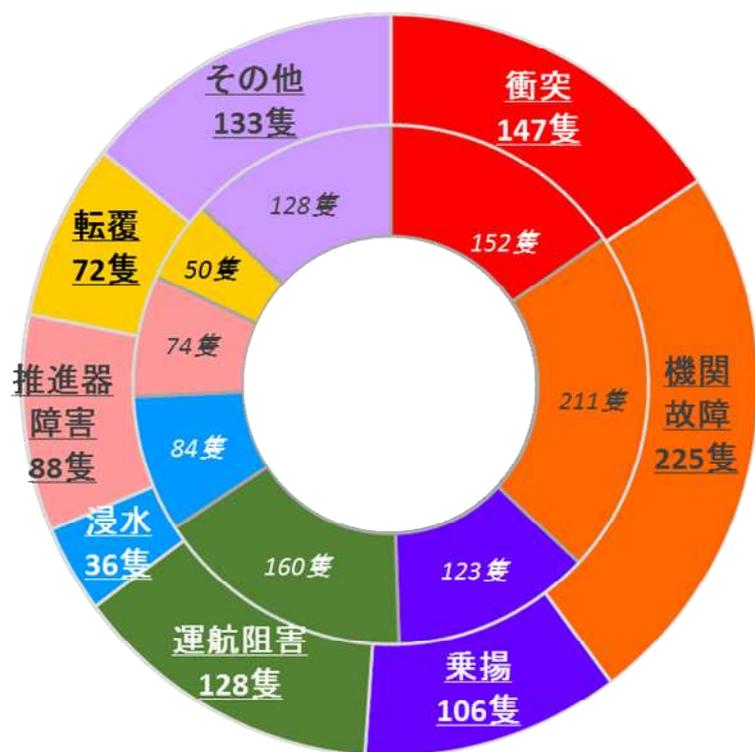


内側グラフ: 第2次ビジョン期間中の年平均
外側グラフ: 平成27年

プレジャーボートの事故種類別事故隻数の推移

(プレジャーボート事故隻数: 935隻)

前年と比較して、衝突が13隻減少(8.1%)、機関故障が10隻増加(4.7%)、転覆が31隻増加(75.6%)

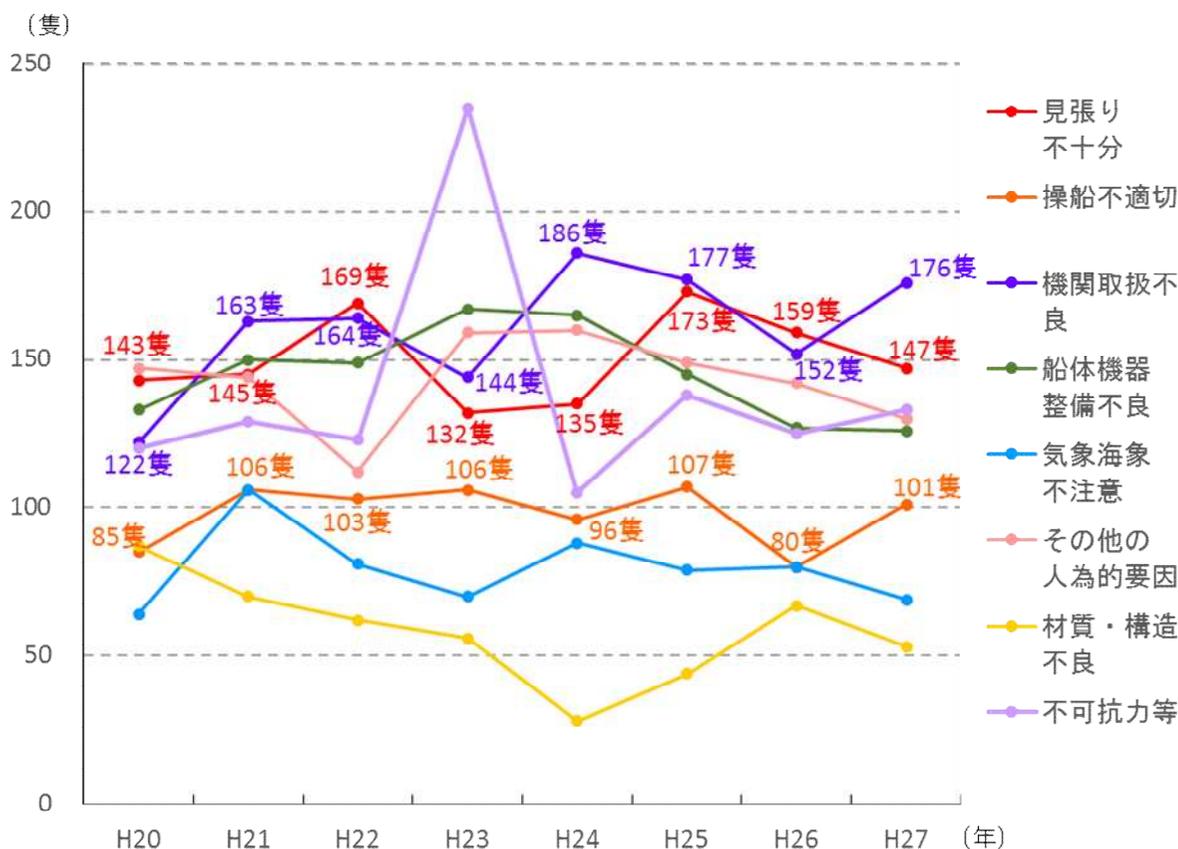


内側グラフ: 第2次ビジョン期間(平成20~24年)の年平均事故隻数
 外側グラフ: 平成27年事故隻数

プレジャーボートの事故原因別事故隻数の推移

(プレジャーボート事故隻数: 935隻)

前年と比較して、見張り不十分が**12隻減少**(7.5%)、操船不適切が**21隻増加**(26.3%)
 機関取扱不良が**24隻増加**(15.8%)



内側グラフ: 第2次ビジョン期間(平成20~24年)の年平均事故隻数
 外側グラフ: 平成27年事故隻数

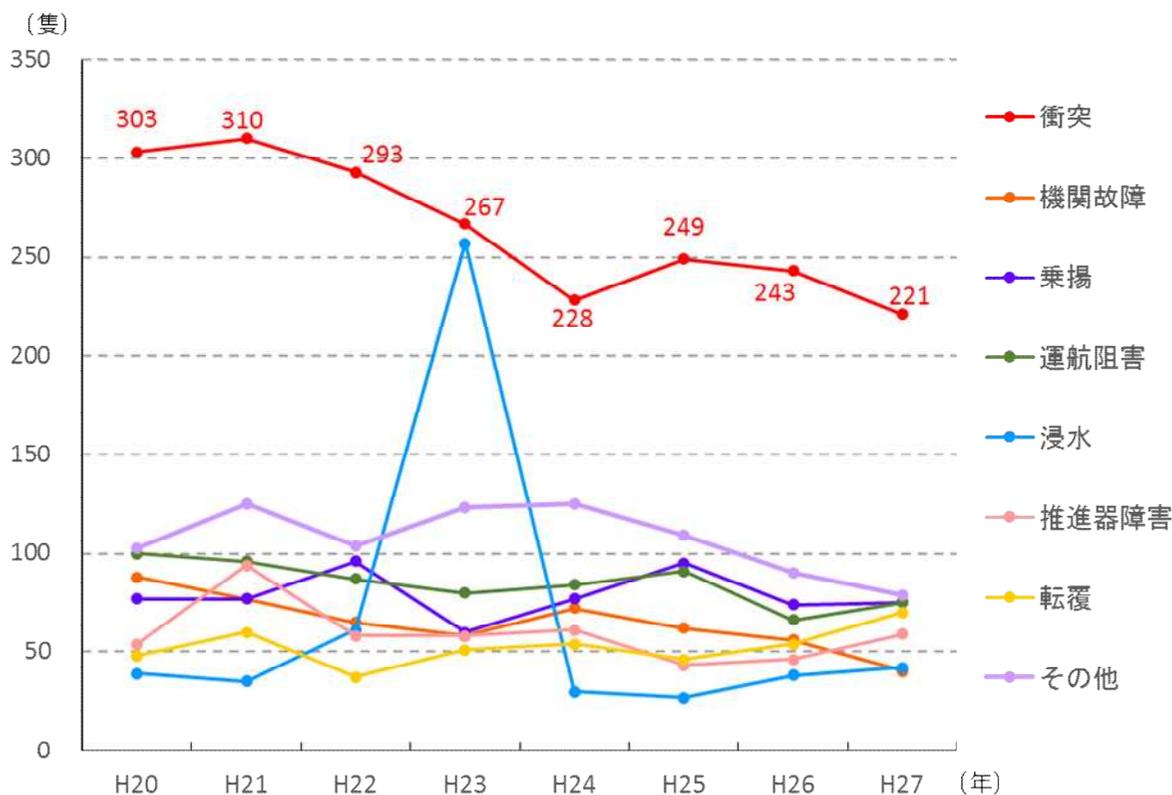
漁船・遊漁船の事故種類別事故隻数の推移

(漁船事故隻数: 600隻 遊漁船事故隻数: 61隻)

前年と比較して、衝突が**22隻減少**(9.1%)、機関故障が**16隻減少**(28.6%)、転覆が**16隻増加**(29.6%)



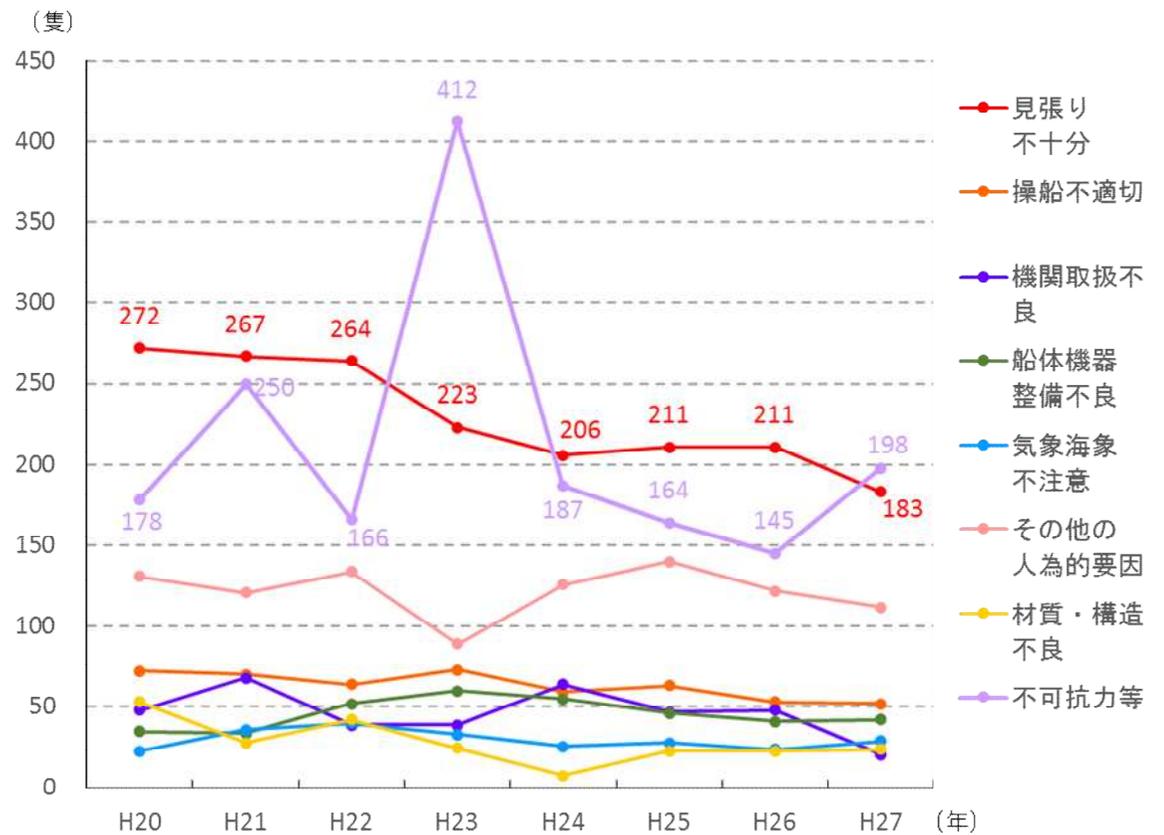
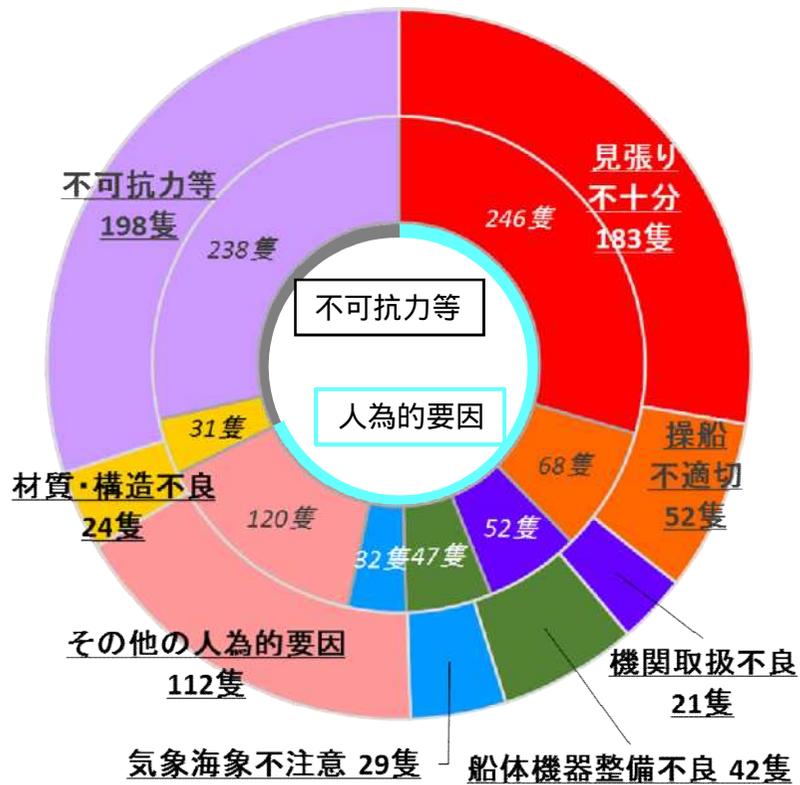
内側グラフ: 第2次ビジョン期間(平成20~24年)の年平均事故隻数
 外側グラフ: 平成27年事故隻数



漁船・遊漁船の事故原因別事故隻数の推移

(漁船事故隻数: 600隻 遊漁船事故隻数: 61隻)

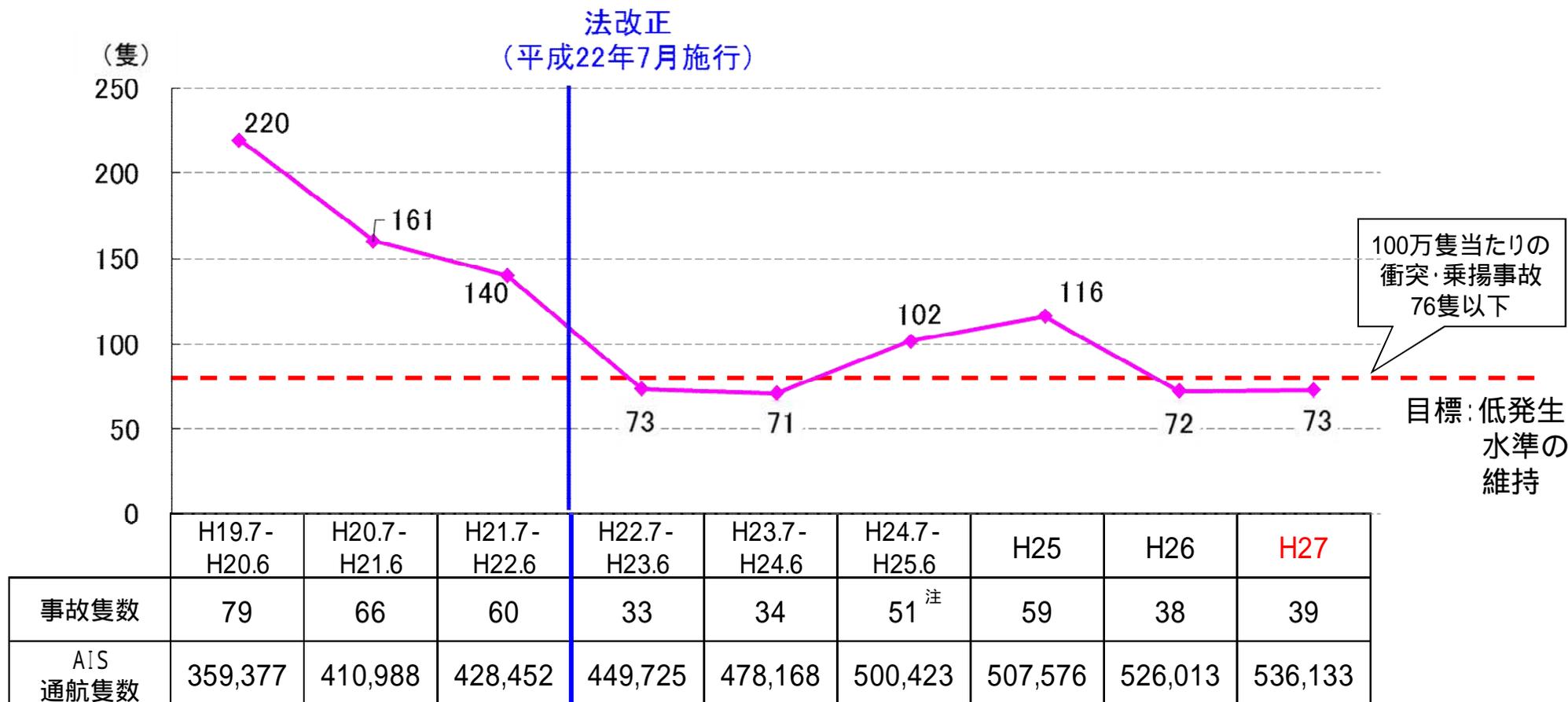
前年と比較して、見張り不十分が28隻減少(13.3%)、不可抗力等が53隻増加(36.6%)



計画目標に関する船舶事故状況等

ふくそう海域におけるAIS搭載船舶通航隻数100万隻当たりの衝突・乗揚事故発生の推移

前年と比較して、100万隻当たりで73隻(前年比**1隻増**)も、目標とする76隻については下回っている



対象海域：航路及び航路付近海域(海上交通センターのレーダーサービスエリア)
ただし、名古屋港海上交通センターの全海域及び関門港以外の港域を除く

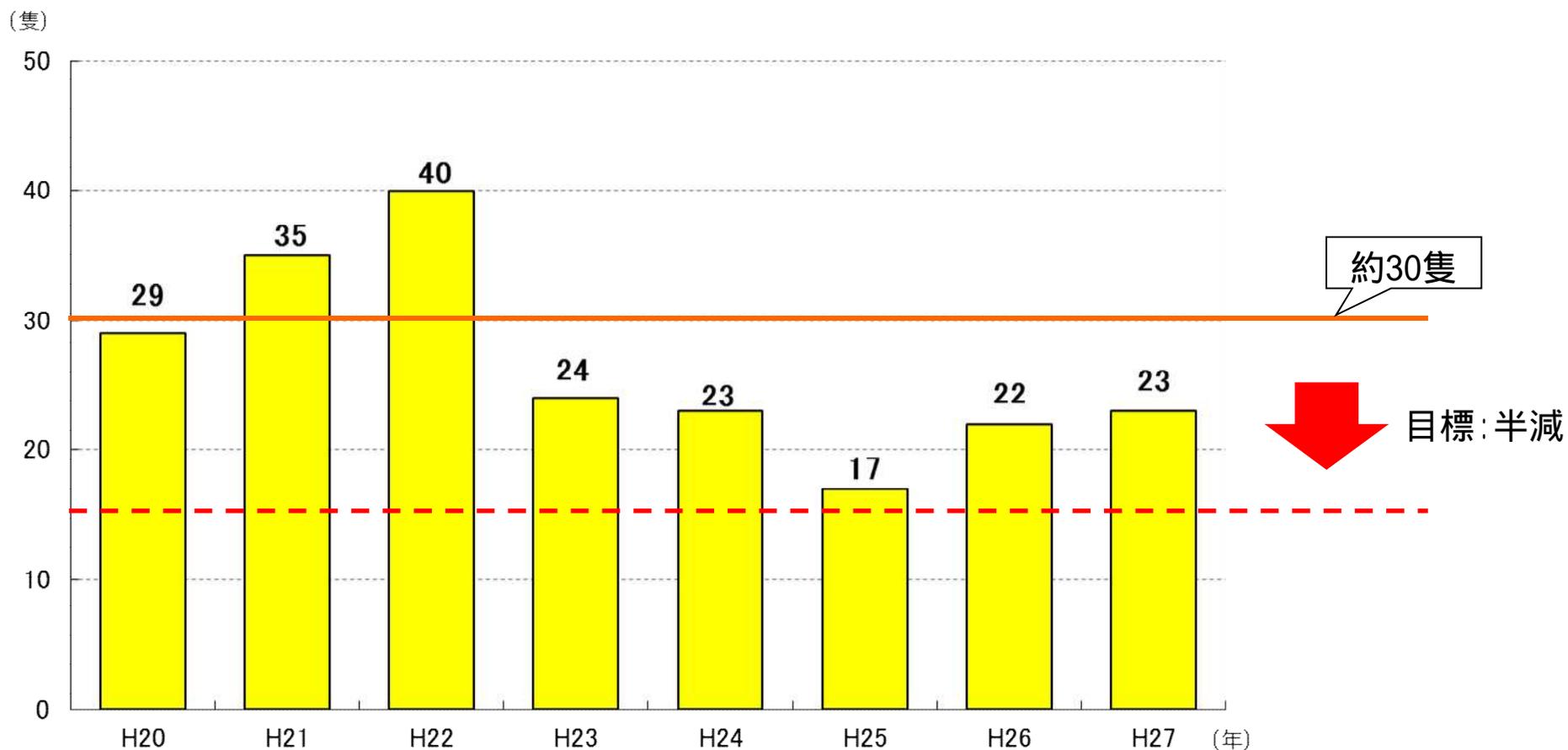
対象事故隻数：総トン数100トン以上の船舶又はAIS搭載船舶

AIS通航隻数：海上交通センター(名古屋港海上交通センターを除く)の情報提供可能海域内の航路を通航したAIS搭載船舶

注) 答申では42隻(速報値)ですが、対象海域等を精査したところ、51隻(確定値)となっております。

港内等における衝突・乗揚事故発生の推移

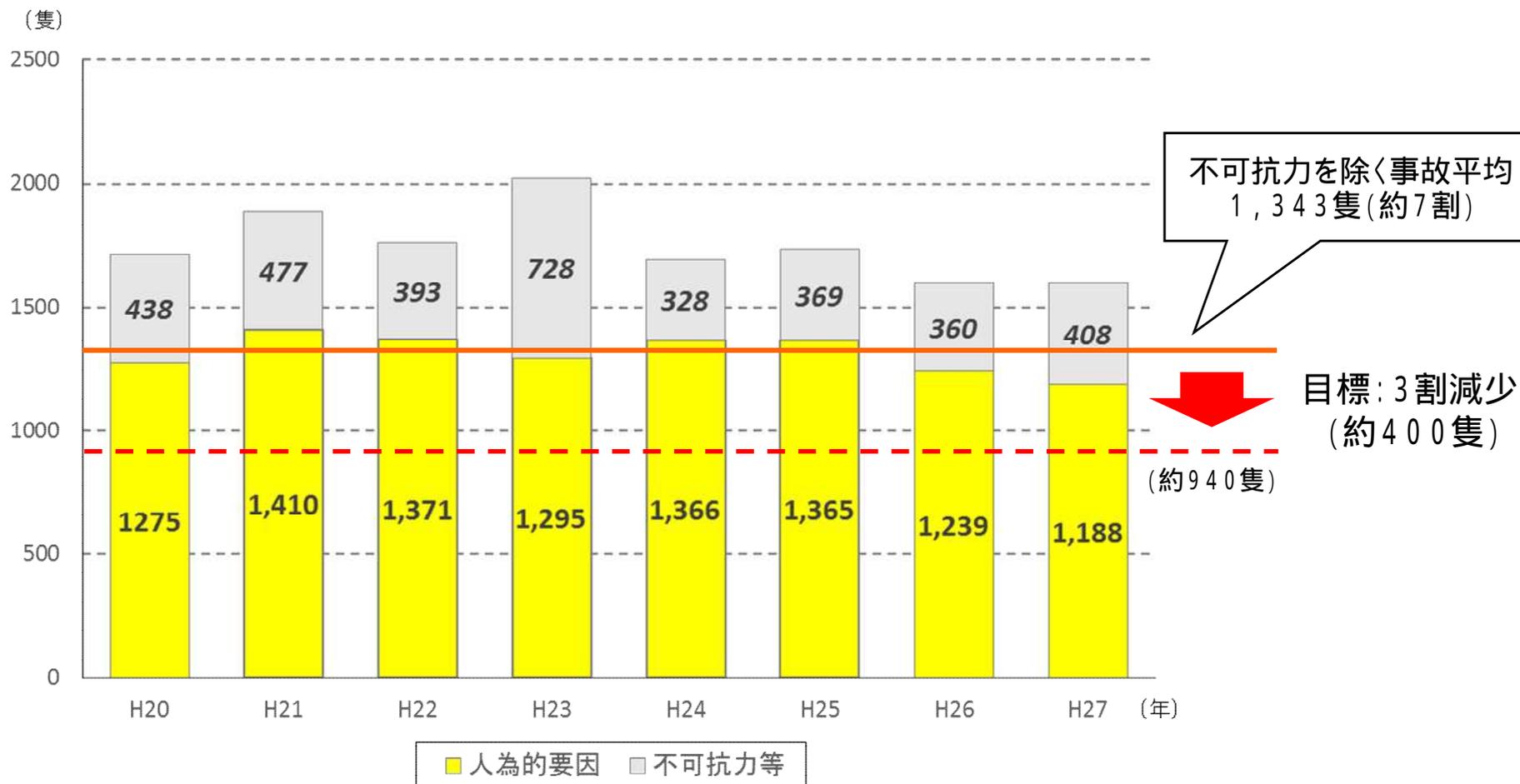
第2次交通ビジョンの期間(平成20～24年)の船舶事故の平均隻数は、約30隻(151隻/5年間)
 平成27年の船舶事故隻数は、**23隻**(前年比**1隻増**)



対象海域：東京湾(情報聴取義務海域を除く)、京浜港、千葉港
 対象事故隻数：総トン数100トン以上の船舶

小型船舶における事故発生の推移

第2次交通ビジョンの期間(平成20～24年)の小型船舶事故の平均隻数は、1,343隻(6717隻/5年間)
 平成27年の船舶事故隻数は、**1,188隻**(前年比**51隻減**)しているものの、計画目標の達成には、さらに大幅な減少が必要



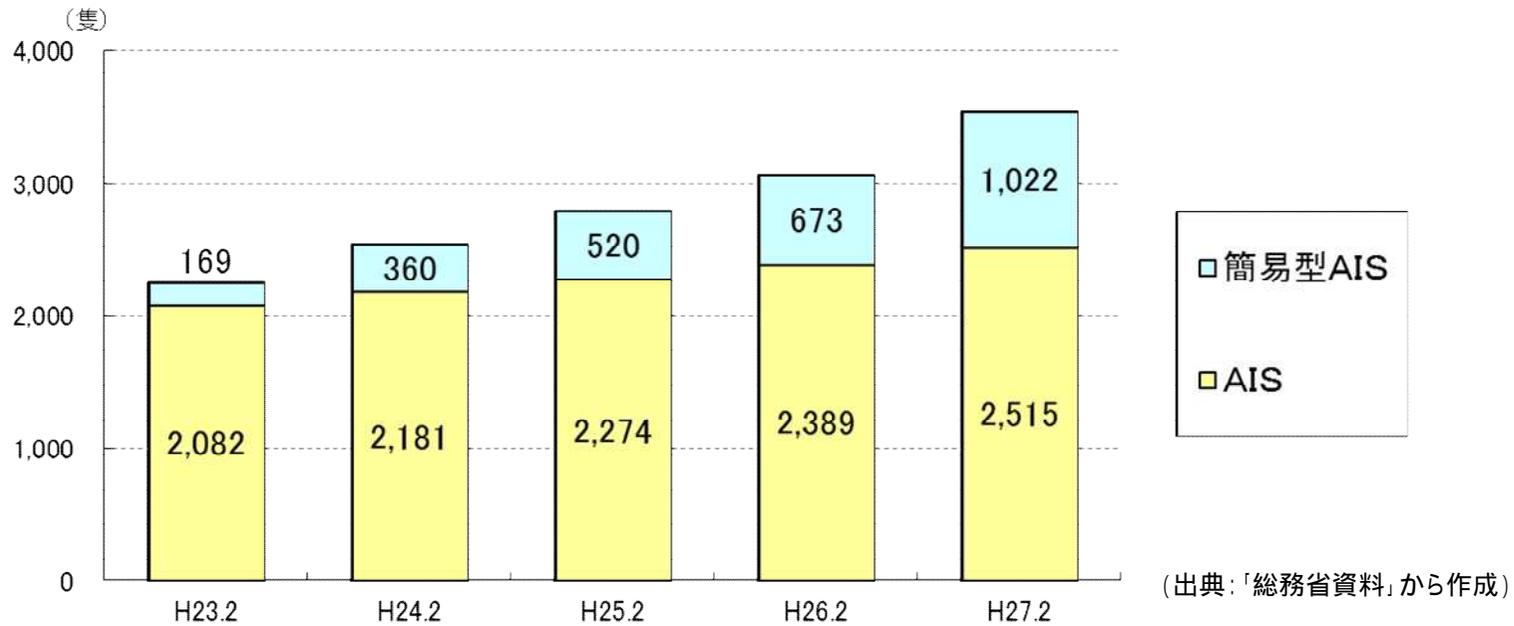
我が国周辺海域で発生する船舶事故隻数の減少

我が国周辺で発生する船舶事故隻数(本邦に寄港しない外国船舶によるものを除く。)を第8次計画期間(平成18~22年)の年平均(2,473隻)と比較して、平成27年までに、約1割を削減(2,220隻以下)する。

平成27年の船舶事故隻数は**2,116隻**であり、**目標値(2,220隻)**を下回っている。



日本籍船のAIS普及状況の推移 / 日本籍船の隻数



		平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
一般船舶	内航船	5,357隻	5,302隻	5,249隻	5,235隻
	外航船	136隻	150隻	159隻	184隻
プレジャーボート	水上オートバイ	約66,000隻	約64,000隻	約63,000隻	約62,000隻
	モーターボート	約198,000隻	約190,000隻	約184,000隻	約178,000隻
	ヨット	約11,000隻	約11,000隻	約11,000隻	約10,000隻
漁船	漁船	約253,000隻	約254,000隻	約249,000隻	約243,000隻
合計		約533,000隻	約524,000隻	約512,000隻	約498,000隻

データ年 内航船:年度末(出典:海事レポート 海事局) 外航船:6月末(出典:海事レポート 海事局) 漁船:年末(出典:漁船統計表 水産庁) プレジャーボート:年度末(出典:海事レポート 海事局)

(単位:隻数)